

2年間の長期試験で観察された結果（要約）

活動力

- ・オスABMK非投与ラットに比べオスABMK投与ラットは活動力が明らかに良くなった。
メスはあまり変化が見られなかった
- ・オスABMK非投与ラットに比べオスABMK投与ラットは白内障発生率が2～5倍減少した。メスもABMK投与群は白内障発生率が減少している傾向が見られたが、統計学的有意差はみられなかった。

全身諸症状

- ・ABMK非投与ラットに比べABMK投与ラットは眼滲出分泌物、脱毛、毛の汚れ、呼吸困難、眼球突出症、流涙、壊死、小結節、麻痺、傷跡等が減少した。

免疫機能

- ・ABMK投与後22ヶ月後の免疫機能について検査した結果、T-cell dependent羊赤血球に対する抗体反応を促進することが確認された。

DNA酸化障害（抗酸化作用）

- ・ABMK投与後24ヶ月後の遺伝子の酸化障害について検査した結果、メスでは心臓の酸化障害が、オスでは脳、心臓、肺の酸化障害が有意に減少した。

結論

剖検異常等も見られずABMK摂取は安全であると評価された。その他循環器官の機能、生殖機能等においても異常は見られなかった。

摂取による発がん性が無い事が確認された。